

科目名	運動生理学演習									
科目名(英)										
単位数	1	時間数	30時間	担当者	園田 剛之					
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○					
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年									
授業概要	身体運動の生理学側面、特に運動器および呼吸循環機能に重点を置きながら学習することにより、理学療法に必要な運動生理学の基礎的知識を理解する。									
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				身体運動の仕組みについて説明できる				
	○	○				運動とエネルギーについて説明できる				
		○	○			目標の運動負荷量を設定できる				
		○	○			検査測定結果を理解することが出来る				
			○			安全に配慮して実習を行うことができる				
テキスト・教材 参考図書	やさしい運動生理学 杉晴天 編 南江堂 標準理学療法学・作業療法学 生理学 医学書院 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト内部障害理学療法循環・代謝 石川朗、木村雅彦 中山書店									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	運動生理学総論;骨格筋の構造、筋収縮のメカニズム、収縮様式と筋力				教科書の予習しておく。				
	2	筋収縮のエネルギー源とエネルギー供給様式				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	3	筋繊維のタイプとその特徴、運動ニューロン、運動単位、神経支配比・他				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	4	神経系による運動の調節;末梢神経と身体運動				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	5	神経系による運動の調節;中枢神経系と身体運動				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	6	身体運動と循環;心臓の構造と機能(心拍数・最大心拍・一回心拍出量・血圧・他)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	7	身体運動と循環;運動強度と心拍数・心拍出量および血圧の関係				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	8	身体運動と循環;肺機能(肺活量・換気量・ガス交換・呼吸商・他)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	9	身体運動と循環;酸素摂取量、最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値・他				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	10	運動負荷と心肺機能;運動強度と心拍数・動脈圧酸素較差・酸素および分時換気量の関係				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	11	運動強度の表し方・まとめ				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	12	運動生理学実習(1)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	13	運動生理学実習(2)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	14	運動生理学実習(3)				授業資料のまとめを復習しておく。				
15	まとめ									
評価方法	(1)授業の中でグループ発表を実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%			
	実習レポート		◎	○	○		10%			
	発表			◎	○		10%			
履修上の注意										

科目名	整形外科学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	九州大学整形外科教室		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	整形外科領域の疾患・治療法を理解する。 各身体部位の基本構造を知り、外傷を理解する。 各整形外科領域疾患の特徴的な症状・病態を把握し、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 理学療法が関わる障害が、どのような疾患から起因するかを知る。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				整形外科領域疾患の特徴的な症状、病態を説明できる。	
	○	○				身体各部の基本構造を知り、外傷について説明できる。	
	○	○				整形外科領域疾患の治療法を説明することができる。	
	○	○				理学療法の治療上での各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。	
	○	○				整形外科疾患から起因する、理学療法が関わる障害について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準整形外科学(Standard Textbook) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	11章-1 骨折1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	2	11章-2 骨折2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	3	11章-3 骨折3				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	4	11章-4 骨折4				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	5	12章 脊髄損傷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	6	13章 関節における外傷性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	7	14章 末梢神経における外傷性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	8	15章 腱・靭帯における外傷性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	9	16章-1 スポーツ外傷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	10	16章-2 スポーツ障害				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	11	17章 熱傷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	12	18章 切断および離断				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	13	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。	
	14	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。	
15	試験対策				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	内科学Ⅱ						
科目名(英)	Internal Medicine Ⅱ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	眞崎 義憲		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		理学療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	内科学概説			教科書で予習しておく。 生理学教科書も併せて予習しておく。		
	2	腎・泌尿器解剖生理			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	腎・泌尿器疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	内分泌系解剖生理			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	内分泌疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	代謝性疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	7	循環器疾患(生活習慣病)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	8	血液・免疫系			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	自己免疫疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	ウイルス性肝炎			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	中毒・環境要因による疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	復習			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	まとめ			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	まとめ			教科書で予習しておく。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				90%
	小テスト	◎	◎		○		10%
履修上の注意							

科目名	神経内科学Ⅱ						
科目名(英)	Neurology Ⅱ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
○	○		○		理学療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学 (補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア、水頭症			教科書で予習しておく。		
	2	脳血管障害Ⅰ、(疫学、分類、合併症、症状、治療)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	脳血管障害Ⅱ、診断(臨床症状による)、リハビリ訓練			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	認知症、記憶障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	脳腫瘍と外傷性脳損傷			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	神経内科と脊髄疾患(神経内科領域、脊髄損傷)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	変性疾患、脊髄小脳変性症関連(小脳症状解説)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	変性疾患、運動神経変性(筋萎縮性側索硬化症など)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	脱髄性疾患、多発性硬化症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	パーキンソン病と失調症、不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	単神経麻痺、末梢性ニューロパチー、ギランバレー症候群			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	筋疾患、筋炎、筋ジストロフィー症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	重症筋無力症、周期性四肢麻痺、代謝性疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	神経内科における感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	○	◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)	Pediatric science						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				新生児・未熟児の疾患について説明できる	
	○	○				先天異常と遺伝病について説明できる	
	○	○				小児期の神経系疾患について説明できる	
	○	○				小児期の筋・骨格系疾患について説明できる	
○	○				小児期の循環器・呼吸器・消化器疾患について説明できる		
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学第5版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 小児科学概論1 発達・成長・栄養・摂食			教科書で範囲の予習をしておく。		
	2	第1章 小児科学概論2 保健 第2章 診断			教科書で範囲の予習をしておく。		
	3	第3章 新生児・未熟児疾患1 Apgar・IUGR・未熟児			教科書で範囲の予習をしておく。		
	4	第3章 新生児・未熟児疾患2 周産期異常・脳室周囲・内出血			教科書で範囲の予習をしておく。		
	5	第4章 先天異常と遺伝病1 メンデルの法則・エピゲノム			教科書で範囲の予習をしておく。		
	6	第4章 先天異常と遺伝病2 染色体異常・奇形・先天代謝異常			教科書で範囲の予習をしておく。		
	7	第5章 神経・筋・骨系疾患1 感染症・脳症・ADEM・CNS奇形			教科書で範囲の予習をしておく。		
	8	第5章 神経・筋・骨系疾患2 先天性CNS疾患・てんかん・脳性麻痺			教科書で範囲の予習をしておく。		
	9	第5章 神経・筋・骨系疾患3 精神発達遅延・筋ジストロフィー			教科書で範囲の予習をしておく。		
	10	第6章 循環器疾患 第7章 呼吸器疾患			教科書で範囲の予習をしておく。		
	11	第8章 感染症 14章 腫瘍性疾患 第15章 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待			教科書で範囲の予習をしておく。		
	12	第9章 消化器疾患 第10章 内分泌・代謝疾患			教科書で範囲の予習をしておく。		
	13	第11章 血液 第12章 免疫・アレルギー疾患・膠原病			教科書で範囲の予習をしておく。		
	14	第13章 腎・泌尿器系・生殖器疾患 第16章 重症心身障害児 第17章 眼科・耳鼻科的疾患			教科書で範囲の予習をしておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	老年医学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	我が国の平均寿命は世界一位となり、高齢障害者が増加している。老年学に関する基本的な医学知識(病態、診断、治療、リハビリ)を理解し、説明することができる						
授業形式	講義:	○	演習:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	◎	○					
	◎	○					
	◎			○			
目標	超高齢社会の現状を説明することができる						
目標	老年医学の臨床的意義を理解することができる。						
目標	疾患別の評価の特徴を理解し、まとめることができる						
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	老化と老年病、加齢に伴う変化(生理機能)			教科書の予習をしておく。		
	2	加齢に伴う変化(運動機能・精神心理面)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	高齢者の定義・人口動態、高齢者との接し方			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	高齢者の機能評価、高齢者の退院支援			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	高齢者に多い症候と老年症候群、循環器疾患			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	呼吸器疾患、消化器疾患			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	骨・運動器疾患、神経疾患			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	精神疾患・内分泌代謝疾患			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	血液・免疫疾患、腎・泌尿器疾患			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	皮膚・口腔疾患、感染症			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	耳鼻咽喉科疾患、眼疾患			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	東洋医学・老年学からのアプローチ			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	社会学・経済学からみた高齢社会、高齢者の医療、介護など			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	高齢者のリハビリテーション			授業資料のまとめを復習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○			○	100%
履修上の注意							

科目名	臨床運動学						
科目名(英)	Clinical kinematics						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	松崎 哲治		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	1. 正常な運動・姿勢・動作を理解する。 2. 運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深める。 3. 疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々の方法により分析する。 4. 分析結果より問題点を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				正常な運動・姿勢・動作を説明できる。	
	○	○				運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について説明できる。	
	○	○		○		疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々の方法により分析できる。	
	○	○		○		分析結果より問題点を抽出できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)石井慎一郎:動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践。メジカルビュー社, 2013. 参考文献:1)中村隆一:基礎運動学第6版。医歯薬出版株式会社, 2000. 2)臨床実習のための歩行分析トレーニングブック 臨床歩行分析研究会 編。金原出版, 2010. 3)Gots-Neumann著:観察による歩行分析。医学書院, 2007.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション 臨床運動学: 総論				教科書の予習をしておく。	
	2	動作に影響を及ぼす要因①: 関節運動 動作に影響を及ぼす要因②: 動作における関節角度の計測				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	動作に影響を及ぼす要因③: 筋活動 動作に影響を及ぼす要因④: 動作における筋出力				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	動作に影響を及ぼす要因⑤: 筋緊張 動作に影響を及ぼす要因⑥: 姿勢保持・動作における筋の張力				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	動作に影響を及ぼす要因⑦: 体性感覚 動作に影響を及ぼす要因⑧: 動作における感覚の影響				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	動作に影響を及ぼす要因⑨: 姿勢制御 動作に影響を及ぼす要因⑩: 姿勢、動作を制御する要因				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	動作に影響を及ぼす要因⑪: 脳の機能、錐体路 動作に影響を及ぼす要因⑫: 運動麻痺、不随意運動、画像所見				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	歩行分析演習①: 歩行周期の概念、立脚相・遊脚相 歩行分析演習②: 股・膝・足関節の角度変化、1歩行周期における筋活動				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	歩行分析演習③: 歩行様式 歩行分析演習④: 正常歩行観察・記録				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	歩行分析演習⑤: 歩行周期の細分化 歩行分析演習⑥: パッセンジャー・ロコモーター・床反力				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	疾患別異常歩行分析演習①: 頭髄損傷・脳卒中片麻痺・膝OAの病態 疾患別異常歩行分析演習②: 脊髄小脳変性症・パーキンソン病・股OAの病				授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	疾患別異常歩行分析演習③: 頭髄損傷患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習④: 脳卒中片麻痺患者の歩行分析				授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	疾患別異常歩行分析演習⑤: 膝OA患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習⑥: 脊髄小脳変性症患者の歩行分析				授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	疾患別異常歩行分析演習⑦: パーキンソン病患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習⑧: 股OA患者の歩行分析				授業資料のまとめを復習しておく。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○		○		20%
履修上の注意	動作分析の際、動きやすい服装のこと。						

科目名	評価学演習						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	松木 直人		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	1. 運動機能検査の神経学的な理論を説明できる。 2. 運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。 3. 理学療法評価の統合と解釈を理解することができる。						
授業形式	講義:	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					運動機能検査の神経学的な理論を説明できる	
	○					運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。	
	○	○				疾患別の評価の特徴を理解し、まとめることができる	
		○				理学療法評価の統合と解釈をとらえることができる	
			○			安全に配慮して実習を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	1) 潮見泰藏、下田信明:リハビリテーション基礎評価学第1版. 羊土社, 2014. 2) 田崎義明、斉藤佳雄:ベッドサイドの神経の診かた. 南山堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション 評価学演習総論				教科書の予習をしておく。	
	2	脳血管障害総論①: 脳血管障害の種類 脳血管障害総論②: 脳血管障害の臨床所見				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	片麻痺運動機能検査①: 中枢性運動麻痺とは? 片麻痺運動機能検査②: Brunnstrom Recovery Stage				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	筋緊張検査①: 異常筋緊張とは? 筋緊張検査②: 検査法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	反射検査①: 表在反射、深部反射、病的反射とは? 反射検査②: 検査法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	感覚、疼痛検査①: 感覚障害とは? 感覚の伝導路 感覚、疼痛検査②: 検査法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	バランス機能、姿勢反射①: バランス機能とは? バランス機能、姿勢反射②: 姿勢反射の検査法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	脳神経検査①: 12脳神経の種類 脳神経検査②: 検査法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	高次脳機能検査①: 失行、失認、失語の臨床所見 高次脳機能検査②: 検査法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	測定結果の統合と解釈①: 症例1 初期情報 測定結果の統合と解釈②: 症例1 仮説				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	測定結果の統合と解釈③: 症例1 問題点、Goal設定、プログラム立案 測定結果の統合と解釈④: 症例1 まとめ				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	測定結果の統合と解釈⑤: 症例2 初期情報 測定結果の統合と解釈⑥: 症例2 仮説				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	測定結果の統合と解釈⑦: 症例2 問題点、Goal設定、プログラム立案 測定結果の統合と解釈⑧: 症例2 まとめ				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	実技総復習① 実技総復習②				授業資料のまとめを復習しておく。	
15	総まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○	◎			80%
	小テスト				○		20%
履修上の注意	定期試験には、実技試験を含みます。なお、授業時は実習着を忘れないこと。						

科目名	日常生活活動学 I						
科目名(英)	Activities of daily living I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	熊丸 真理		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・基本動作の重要性と、理学療法士との関係性について説明できる。 ・正常動作の原理に基づき、基本動作の分析ができる。 ・障害別の基本動作の特徴を説明できる。 ・代表疾患(脳卒中、パーキンソン病)の基本動作の指導ができる。 						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					基本動作の重要性と、理学療法士との関係性について説明できる。	
	○	○				正常動作の原理に基づき、基本動作の分析ができる。	
	○	○				障害別の基本動作の特徴を説明できる。	
	○	○				代表疾患(脳卒中、パーキンソン病)の基本動作の指導ができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)石井慎一郎:動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践. メジカルビュー社, 2013. 参考文献:1)中村隆一 他:基礎運動学(第6版). 医歯薬出版株式会社,2005 2)中村隆一 他:臨床運動学 (第3版). 医歯薬出版株式会社,2002 3)動画でみる臨床動作分析のポイント. 理学療法24(8),2007						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学習指示		
	1	オリエンテーション 基本動作とはなにか?			教科書の予習をしておく。		
	2	動作分析演習①: 坐位姿勢の構成要素			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	動作分析演習②: 立位姿勢の構成要素			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	動作分析演習③: 基本動作の構成要素			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	動作分析演習④: 基本動作の構成要素			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	寝返り動作①: 動作観察・力学的検討			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	寝返り動作②: 症例の動作分析			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	起き上がり動作①: 動作観察・力学的検討			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	起き上がり動作②: 症例の動作分析			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	起き上がり動作③: 誘導・指導			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	立ち上がり動作①: 動作観察・力学的検討			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	立ち上がり動作②: 症例の動作分析			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	立ち上がり動作③: 誘導・指導			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	実技練習			授業資料のまとめを復習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				80%
	小テスト	◎			○		20%
履修上の注意	動作分析の際、動きやすい服装のこと。						

科目名	生活環境学										
科目名(英)											
単位数	2	時間数	30時間	担当者	牧井 昭憲						
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○						
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年										
授業概要	1. 高齢者・障がい者を取り巻く環境について説明ができる。 2. 住環境を整備するための基本的知識を利用して基本的な環境整備ができる。 3. 理学療法士の観点から環境整備が実践でき、その提案を可視化できる。										
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					高齢者・障がい者を取り巻く環境について説明ができる。					
	○					住環境を整備するための基本的知識を利用して基本的な環境整備ができる。					
	○	○				理学療法士の観点から環境整備が実践でき、その提案を可視化できる。					
テキスト・教材 参考図書	福祉住環境コーディネーター検定試験®2級公式テキスト<改訂4版> 東京商工会議所										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	高齢者・障がい者を取り巻く環境の現状とその問題点について					教科書の予習をしておく。				
	2	生活環境整備のための基本的技術について					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	3	生活行為別住環境整備の考え方について					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	4	住環境整備の実践のための基礎的共通項目について					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	5	生活行為別にみた福祉用具の活用について					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	6	作図の実際1					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	7	作図の実際2					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	8	事例検討					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	9	作図の実際3					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	10	作図の実際4					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	11	住環境整備の実践1					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	12	住環境整備の実践2					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	13	住環境整備の実践3					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
	14	住環境整備の実践4					教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。				
15	まとめ					これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。					
評価方法	(1)グループでの発表を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	◎	○				70%				
	発表	○	◎		○		30%				
履修上の注意											